

アスペクト形式「ている」を伴う可能動詞句の意味と特性

The Meaning and Characteristics of the Japanese Potential Verbs with Aspect Form *teiru*川端 元子 †
Motoko Kawabata

Abstract: As a general rule, the potential form of verbs, which is a stative predicate, cannot be used with the stative descriptive *teiru*. However, in actually, such expressions often appear in conversational Japanese. In written text, with the exception of direct quotations from conversation, these expressions are almost completely absent. Thus, this study examined both the ability-related meaning of ‘potential-form + *teiru*’ and *teiru* itself to investigate the context in which each expression appears, the implications of the expressions, and the reason for their tendency to be used only in conversational Japanese.

The study results revealed the following three properties of ‘potential form + *teiru*’:
1. It acknowledges the actualisation of a certain state through the actions of the subject. 2. That state implies a Positive evaluation of an expected way of being. 3. As it describes the resultant state of the subject’s actions, the content of the positive evaluation is not specified.

These properties reveal that the information transmitted by the expression has a tendency towards ambiguity unless its implications are limited by adverbial phrases or by the situation of speech. It is for this reason that it is not used in reports or other context that demand greater objectivity.

1. はじめに

「読める」「書ける」などの可能動詞や、「想定できる」「対応できる」などのサ変動詞+「できる」、さらに、「食べられる」「起きられる」などの「られる」を伴う述語は、状態を叙述するものである。したがって、動作の局面を表して状態性をもたせる「ている」とは原則として共起しないとされてきた。

しかしながら、可能動詞や可能形とともに「ている」が出現する次のような例も存在していることも確認されている。

(1) 結果は中飛となるも「最後の打席は割とよかった。若干差し込まれているけど。自分の間で打っているときっかけをつかんだようだった。

(<http://www.nikkansports.com2015/03/10>)

(2) 「道路」があるから自動車、バイク、その他が道

を走って、自分が行きたい目的地に行くことができている。(S)

(3) 口を開けながら歌っていませんか？本当はちゃんと歌えているのに音痴に聴こえてしまうその理由 (Blog <http://blogs.itmedia.co.jp/nagaichika/2012/03>)

これらはそのほとんどが、会話や日記や独話などを含む話し言葉的な文章や、文章中に会話を直接引用した箇所に出現する。すでに竹沢 (2014)¹⁾や山岡 (2003)²⁾は、この表現の意味について、可能を表す語彙の特徴とアスペクト形式「ている」の意味の両面から考察している。しかしながら、なぜ説明的な文章にはほとんど出現せず、会話のなかで用いられやすいのかなどについては、管見する限り十分に分かってはいない。

そこで本稿では、会話中に出現しやすい理由について、形式の意味を整理した後、「可能動詞・可能形+ている」(以下、「可能形式+ている」と表記)が用いられる発話環境から考察する。これらをもとに表現が出現する条件とその表現を用いることによって表される発話の意図・

† 愛知工業大学 基礎教育センター (豊田市)

含意について明らかにするとともに、客観的な情報伝達を行う文章語として不適切であることを示す。

2. 先行研究での説明

2・1 可能形式の特徴

町田 (1989)³⁾では、「できる」「読める」などの可能動詞は、主語の能力を示すもので、意味的には状態動詞に属すると述べる。さらに、「能力というのは、主語に備わっている一種の属性であって主語が存在するあらゆる時点で真である場合と、主語に一時的に備わっている場合がある」と述べている。

また、可能動詞は状態性の高い動詞なので、基本的にはアスペクト形式の「ている」を伴わないこと、伴う場合は、「発話時点における状態ではなく、『結果の継続』を意味するのが普通である」としている。

(4) 花子は文章がよく書けている。

(用例は町田 1989、下線は筆者による)

(5) *太郎はその映画を鑑賞できている。(〃)

したがって、(4)のように主語の一時的な能力を示すような終結点を持つ場合には、結果の継続の意味になるため、「ている」が付けられる。しかし、(5)のように、発話時点で事象の結果が真であることを知覚するのが難しい場合には不自然になる。結果が目の前にあって、知覚することができるのは異なるからと説明している。

ただし、(5)も副詞「(その年でもう)十分に／立派に」を用いて、「太郎は{十分に／立派に}その映画を鑑賞できている」とすれば許容度は上がる。この点から、発話環境や前提によって許容度が変化するものであることが分かる。

2・2 可能形式の意味素性

では、そもそも可能形式を用いた文とはどのようなものか。井島 (1991)⁴⁾は、可能形式を用いた文の特徴としてあげているものを以下に示し、これらの特徴をもとに可能文が状態性の述語に近いとする。

(6)①裸形 (助動詞などがつかない、辞書に載っている基本形) で現在を表すことができる。

②時間を表す副詞句は原則として共起しない。

③テンス・アスペクトを表す付属形式は共起しない。

④「…ようになる／する」のかたちで変化を表す動詞に変換することができる。

⑤比較の基準「より」や程度副詞、程度を表数量詞と共起することができる。

その一方で、「は」を挿入した際に、「彼女は美しくはあるが、…」ではなく、「フランス語を話せはするが…」のように動作性の述語と同じ姿を持つことを指摘し、可能文をつくる動詞には意志性があるとする。また、③に

ついては、動作の実現という局面で「ている」がつく例をあげ、アスペクト形式が「〈可能〉に関わるのではなくむしろ動作の実現に関わる」と述べている。

そこで次の例を見てみよう。(7)の可能形式は「裸形」だが、ここでの可能形式の意味は、実現する可能性や実現するための能力チャンスを持っているという潜在的なものであり、テンス、アスペクトの形式や副詞句とともに用いたとき、実現されたことを表す表現になっている。

(7) 私はピアノが弾ける。〈能力・潜在する可能性〉

(8)a よし、うまく弾ける／うまく弾けた。

〈可能〉＋〈実現〉

b これは十分うまく弾けている。〈可能〉＋〈実現〉

ただし、次の例では、発話時点において動作は実現されているわけではない。

(8)' けがさえなければちゃんと弾けている／弾こう

と思えば弾けているはずだ。〈可能＋実現?〉

上の例の「弾けている」は「弾ける」と同じく動作の実現には無関係で、あくまで動作の結果として設定されたあり方を表示したに過ぎない。これについて、井島(1991)は「可能文が実現された自体を含意するということは、〈可能〉という潜在的な意味とは矛盾しているのだから、あくまで付加的なものであるはずであり、実現された事象の方が表面化すれば〈可能〉の意味は背景化して、『結果的に生じた出来事』というようなニュアンスを表すようになり、〈自発〉へと連続していくように思われる」と述べる。

「可能形式＋ている」は、ある動作の実現を述べるのではなく、動作によって出現した状態がそこに存在していると確認したことを述べる表現であり、その否定形「可能形式＋ていない」はその状態が存在していないことを述べる表現である。

2・3 「ている」を伴うことの意味

アスペクト形式「ている」には、前接する動詞の性質も含めて多くの研究蓄積がある。それらを概観すると、大きくは進行中(継続相)と結果の継続(完成相)の意味に分けられるが、いずれもある動きや状態の持続されているようすを表すものである。これについて森山(1988)⁵⁾では、広い意味での動きの「持続」のなかに、「過程(動きが運動として展開している期間)」、「結果持続(動きの結果が持続的である場合)」、「維持(動きの結果の保存が主体的に行われる前二者の中間的なもの)」の三つが大枠として示されている。さらに、動詞自身の性質や共起する副詞句などによって、当該の文(動詞句)のアスペクトの意味が規定されるとの指摘がある。これより、「アスペクトの現象を包括的かつ統一的に扱おうとするならば、動詞の意味を中核にしつつも、副詞や格成分の意味も含めて、出来事をあらゆるレベル全体の意味を考えるべきではないだろうか。アスペクトとは、出来事全体の時間

的様相をとらえるものなのである。」(森山 1984)⁹⁾と主張する。

実際に、「可能形式+ている」が文中で許容される場面では、先にも述べたように、副詞句や格成分によって差が生じることも少なくない。本稿においても、それらを考慮した出来事全体を捉えて考察する。なお、「三日前には歩いていた」や「さっきからずっと歩いている」の場合、「ている」の意味は「記録・経験」と「動作の進行」などと区別されるが、「可能形式+テイル」の意味を考えるにあたっては、特に考慮する必要はないと考える。むしろ、「可能形式+ている」が許容される場合には、専攻研究でとりあげた例でも「うまく」「きちんと」「十分に」などの肯定的評価を表す副詞句を伴うことが多いため、そこに注目する。

2・4 「ている」を伴う可能形式について

山岡 (2014)⁷⁾は、可能動詞の基本形は「属性叙述」、「可能形式+ている」は「状態描写」として、その相違点を述べている。さらに、「私は休める」は、主体が「休む」能力を持っているのではないことや、「泳げる」も多義的で、主体に能力があることとともに、「許可証を持っている」といった可能性を実現するための何らかの要因があると読めることを指摘している。つまり、可能動詞の「属性叙述」には、主体にその能力があるという主体自体の状態について述べる側面と、「見張りがいなければ逃げられる」のような、主体の置かれている場面がそのような性質を持っている状態であると述べる側面を持っていることになる。このことは、先述の意味を探るために文に描かれるできごと全体の様相を見る必要があると森山 (1984) の指摘の重要性を再認識させる。

竹沢 (2014) は「ている」を伴う可能動詞や可能形について、進行相解釈を持つタイプと結果相解釈を持つタイプの二種類に分類して、それぞれの特徴を説明した。

(9) 今日はフォワードの選手がよく動けている。

[進行相解釈] (竹沢 2014)

(10) そのぞうきはきれいに縫えている。

[結果相解釈] (竹沢 2014)

「進行相解釈」とは動作の継続を表し、「結果相解釈」とは、結果状態の継続を表すものである。前者は、主体が有する潜在的な能力や可能性が実際の行為として実現されつつあるという意味での動作の継続を表す「事象叙述文」となる。後者は、文中に明示されていない主体の行為の結果が客体の質として実現された結果状態の継続で、「属性叙述文 (動詞が表す行為によって引き起こされた結果状態に基づいて特徴付けを与えられたもの)」と区別した。

なお、山岡 (2014) が可能動詞を用いた「ている」のない文 (井島 1991 の「裸形」) を「属性叙述」とし、竹沢 (2014) が「可能形式+ている」文のうちの1タイプを「属性叙述」としているの、誤解のないように整理

しておく。これは、両者において「可能形式+ている」文の性質を規定する比較対象が異なるために生じた問題であり、矛盾しているわけではない。竹沢 (2014) の「可能形式+ている」の「属性叙述」とは、「能力の所有という特性が実際の活動として具現化したことを表している」と捉えることができる」ものである。これは、あくまで主体の行為の結果として生じた客体の変化した状態である。その意味では、山岡 (2014) が「可能形式のみの場合は主体に備わる能力として叙述するものとし、これに対して「可能形式+ている」文を、主体や客体に生じた変化やそれらに実現した状況を示している状態叙述としているのと同じと言えよう。

2・5 「可能形式+ている」の特徴と課題

以上をもとに、「可能形式+ている」に関する特性を整理しておく。なお、以後本稿では、可能形式が、主体の行動を通して主体の潜在的な能力や主体の行動や動作を具現化することを、ある状態の「出現」、それが具現化したことをとりあげて「認定」という用語に便宜上統一する。

(11) 「可能形式+ている」の特徴と課題

- ①潜在的な可能性が行動の遂行を通して出現したある状態の存在を認定する。
- ②動作や行為が進行中か完成した結果かを問わず、何らかの状態が持続した状態であることを示す。
- ③出現した状態は、程度やできえを評価する副詞とともに用いられる傾向があるため、意味や性質を分析するには、は副詞や格を含んだ述語文の全体像を見る必要がある。

なお、ある状態が出現することを認定する場合、共起する副詞は肯定的な評価をするタイプであるため、出現した状態は何らかの評価を帯びていると考えられる。しかも、可能形式自体は肯定的な意味を持つものだけでは限らないので、肯定的な内容に偏る点も「可能形式+ている」の特徴を示していよう。ある状態の出現を認定するにあたって、その状態が存在すること自体が何らかの肯定的価値を持っている可能性がある。

3 未整理な「可能動詞+ている」

3・1 「話し言葉」的な表現という認識の存在

冒頭にも述べたように、「可能形式+ている」の使用例や、竹沢 (2014) や山岡 (2014) が許容できるとして用いている用例は、会話やインタビュー記事のなかで見かけることが多い。また、「ている」ではなく「てる」を伴うものもあり、話し言葉的な表現とみなすことができよう。

たとえば、香川選手が試合後のインタビューで「集中できていなかったなど。試合に入りきれなかったんじゃないかと思います」と答えたとされる取材記事のタイトルは、発信者によって異なる編集がなされている。

(12) 前半だけで交替させられた香川「集中できていなかった」と反省。(http://www.goal.com/jp/news/123/ドイツ/2015/03/08)

(13) 精彩欠き前半で交替の香川「集中出来ず、試合に入りきれなかった」

(http://www.soccer-king.jp/news/world/ger/20150308)

(12)は、インタビュー中のことばをそのまま用い、(13)はインタビュー内容を編集している。後者は、集中できなかったこと何を捉えたものか、発話の場面での意図をより分かりやすく整理している。その意味では、より書き言葉的と言えるだろう。

さらに、次の(14)は、大学生がレポートを作成するにあたって、読んだ資料(15)を引用する際に表現を変えている箇所である。

(14) 「法政大学の食堂では 14 人に一人の割合でしか食事できていない」ということだ。(S)

この、元になる資料には次のように記述されている。

(15) 座席数の合計は、1,072 席であり、仮に市ヶ谷キャンパスにいる学生全員がランチタイムに学生食堂で食事をしようとすると、約 14 人に 1 人の割合しか学生食堂で食事をとることができない計算となる。

(http://hirata-seminar.ws.hosei.ac.jp/seminar2008_1.pdf)

(14)は引用符つきになっており、まとめるにあたって意見の引用という体裁を意識したと考えられる。その分カジュアルな言い方になっている。

ここでとりあげた例は、発話を会話体のまま引用するか、いったん内容を整理して記述するかといった手法の相違にすぎない。しかしながら、整理された文章において「可能形式+ている」がほとんど出現しないのは、表現として未整理な面があるからであり、発話の場面に依存する度合いが高いからと考えられる。したがって、「可能形式+ている」の意味を理解するために、ともに用いられている語句や出現のパターンを含む全体像を捉える必要がある。

3・2 「可能形式+ている」の主観的側面

話し言葉的な表現の出現する大学生のレポートにおいても「～することができている」はほとんど見られなかった。では、「可能形式+ている」が持つ先ほどのような意味を表現したいときに、書き言葉としてはどのような置き換えがなされるのだろうか。いくつかの例をとりあげて置き換えてみよう。

(16) 「ショットもバットもイメージ通りに打っているし、チャンスはある。」と上位を見据えた。

(http://www.sponichi.co.jp/sports/news/2015/02/20)

(17) 「皆さんのおかげで私は歌えてるんだなって思います」と喜びを表した

(http://natalie.mu/2012/12/24)

(17) 絢香、二年ぶり復帰で感無量「歌える喜びを感じた」(http://www.oricon.co.jp/news/2005056/)

(18) 「4年がたったけど、まだまだ元通りの暮らしに戻れてない方もたくさんいる」

(http://www.chunichi.co.jp/2015/03/10)

(16)の「打てている」は「打てるが続いている」「打てるようになっている」「打てる状態である」(17)は(17)'のほかに「歌ってられる」「歌える今がある」、(18)は「戻ったといえない」「戻るところまでいていない」などに置き換えられるだろう。ほかにも、「経験できている」は「経験している」、「解決できている」は「解決に至っている」「解決済みだ」、「使っている」は「使いこなしている」などが考えられる。決まったかたちではなく、それぞれ文意にあわせて言い換えられるだろう。

その選択は述べる時の視点と関わる。主体の行動に視点を置いて述べるならば、主体が何か行動してある状態を達成することを表す述べ方をとる。すなわち、「使いこなしている」「経験している」といった「主体が～をしている」となる。これに対し、できごとに視点を置いて「ある状態が出現した」のように述べるのが、「打てるが続いている」「解決に至っている」のような述べ方となる。

「可能動詞+ている」はその両方の視点を持っている。主体の行動をとりあげながら、それによって出現した状態を認定するので、動作する主体に視点を置いてのべることも、出現した状態に視点を置いて述べることもできる。ただし、状態の出現を判断・認定するのは発話主体(内容の説明者)であり、たとえ自分が動作主体であっても文中に示された動作の主体としてではなく、それを認定する第三者の立場となる。そのため、ものごとを述べる際に説明者の評価が入る主観的なものとなる。これは「ている」の特性でもあり(山岡2014)、「ている」は「彼は悲しんでいる(cf. *彼は悲しい)のように、「人称制限」を解除し、感情描写をする動詞とともに用いて、「私は怒っている(cf. *ああ、怒る)」のように「語彙制限」も解除して、客観的な叙述を可能にする。

このように、「可能動詞+ている」は、客観的に述べる側面を持っている「ている」を用いつつも、何かを説明する文章としては客観性にかける性質を持つ。

3・3 話し言葉から書き言葉への橋渡しをする表現

文章中に「可能形式+ている」は出現しにくいのが、動詞「できる」に「ている」のついた「できている」は出現することがある。

(19) 世界は言葉でできている。

(http://www.fujitv.co.jp/b_hp/sekai)

(20) なぜ宇宙はこんなにも人間に都合よくできているのか——宇宙の謎がよくわかる、村山宇宙論の決定版。

(<http://www.amazon.co.jp/宇宙はなぜこんなにうまくできているのか-知のトレッキング叢書-村山斉>)

上の「できている」は「作られている」や「成り立っている」と同じような意味を表す動詞である。この「できている」も、タイトルや問いかけに出現する例も多く、文章用の表現とは言い切れない。

なお、「できる」は可能動詞ではないが、可能動詞を名詞と動詞に分割した「～(す)ることができる」や「～(す)ることが可能だ」の形式は出現する。

(21) スムースに食事を取ることができれば、午後の授業を気持ちよく受けることができる。(S)

(22) 今では、筆圧、傾きなどの感知、各々のソフトペン設定などにより、まるで紙に書いたかのような仕上がりにすることも十分可能である。(S)

これらは、大学生が作成したレポートに出現した例である。いわゆるラ抜き可能形式を使うのを避ける役割を持ち、「れる」「られる」を用いた受身や自発などと区別して、文章の意味を明確にする。この場合の、「できる」は、ある状況に「達している」、あるあり方を「達成している」、「成立させている」といった意味に置き換えられるものである。「可能だ」は可能性の存在を述べるモダリティ形式の一種であるが、両者は(22)のように分割された語句のあいだに副詞句を挿入でき、達成度や可能性の程度を修飾できる。

このような可能形式を二語以上に分割して表現することは、「できる」や「可能だ」以外の表現を用いる工夫へとつながる。

(23) デルガードは、軸内部に芯を誘導する部品を取りつけることで、芯がつまるという不満を解消させることにも成功した。(S)

このような語句を複数に分割して示す方法も、〈動作主体視点〉と〈できごと視点〉の両方に対応する表現である。

4. 「ている」を伴う可能動詞句の含意

4・1 「基準のクリア」を認定するということ

先にも見たように、可能形式の基本形は、前者が主体の持つ能力やある状態を出現させる環境の存在をあらわす表現であり、「可能形式+ている」は、主体の行動を通して出現するある状態を認定するものであった。会話に主に出現する後者は、レポートなどの文章では一部は前者に置き換えられていると考えられるが、表現としてどのような違いが生じるのだろうか。

(24) “女優”前田敦子、「やりたい道を歩いている」と脱退後の想い明かす。

(<http://www.cinemacafe.net/article/2014/10/09>)

(24)' やりたい道を {歩ける／歩けた}

(25) 初回到西村から左前適時打を打ち「初球から打ている」のは、打ちにいけている証拠」と一定の手応

えを口にした。

(<http://www.sponichi.co.jp/baseball/news/2015/02/12>)

(25)' 初球から {打てる／打てた} のは、{打ちにいける／打ちにいけた} 証拠

(24) (25) は出現した状態が発話時点で継続されていることが分かる。これに対して (24) 'や (25) 'は、時間を超越したものか、過去の一時点でのできごとと読める。次の場合は上の例とは少し異なる。

(26) a あの頃の二人に戻れているならば、やる直せる。

b あの頃の二人に戻れたならば、やり直せる。

(26) では、a b のいずれであっても大差なく見える。しかし、b は「戻れた」という状態の出現を条件として設定する。出現した結果状態の保持ならば、原則として逆行は無い。他方 a は、「ている」が一定期間の継続であるため、結果状態の継続であっても終了地点が存在する。その時点の状態が「戻れた」といえる状態であるかどうかの認定が、その都度行われる。相反する「戻れていない」状態も想定しているからこそ、出現する状態の認定という意味を持つ。

では、「可能形式+ている」ので認定される「状態の継続」とはどのようなものか。「戻る」や「歩く」は動作の継続や状況の進展が分かりやすいが、「打つ」は瞬間的に完成する動作であるため、「打っている」は何度も繰り返し同じ状況が出現していなければ「継続」とならない。「打てた」という状態が繰り返し出現する必要がある。

「歩いている」についても、主体がもつ潜在的能力を実現した状態が継続しているのが「歩ける」に対して、「歩ける・歩けた」という状態の出現を認定し続けているのが「歩いている」である。

そこで、「守る」とも「守っている」とも置き換えられる「守れている」をとりあげてみる。

(27) 自転車での一時停止とは“片足を地面につく”ことです。ただ、実際にこれを守れている人はかなり少ないので、この項目で摘発されることが一番多くなるかもしれませんね

(週プレNews2015/02/14

<http://news.livedoor.com/article/detail/9784917/>)

これまでの考察をふまえると、「守れている」の意味はは次のように整理できる。

(28) a 「守れた」という結果状態を維持・継続していると認定すること。

b 「守れた」と評価できるボーダーラインを何度もクリアし続けていると認定すること。

たとえば、一度「知る」と知識となるため、その状態は永続性がある。したがって、「知っている」の否定は「知らない」ではなく「知らない」となる。「守る」の反対は「守れていない」であり、「(灯りが) 点いている／点いていない」と同じ可逆性をもつ関係にある。異なるのは、認定の基準である。「守れている」の認定は出現した状態が「守れた」と判断する基準をクリアし

たときに認定される。ただし、「守れている」の認定は、何らかの根拠があるとしても判断の基準の設定に自由度が高いため主観性をもつ。「灯りが点いているつもりだが、実際のところ点いていない」が不自然なのに対して、「守っているつもりだが、実際のところ守れていない」は表現として可能である。つまり、目に見える現象を根拠にしている「点いている」は属性叙述であり、このタイプがもつ客観性が「可能形式+ている」にはない。

以上、「可能形式+ている」の意味における〈結果状態の継続〉ということは、基準となる状態の実現を繰り返して認定することでもあった。そして、基準となる状態が客観的でない場合には、認定する主体の主観性が反映することとなる。

4・2 「出現する状態」とは何か

では、発話の中で認定する〈出現した状態〉であり、クリアすべき基準とは何だろうか。先述の例を再度見てみる。

すでに述べたが、「可能形式+ている」には、「きれいに」「よく」「上手く」「きちんと」「ちゃんと」などの副詞句がついていることが多い。

(3) 口を開けながら歌っていませんか？本当はちゃんと歌えているのに音痴に聴こえてしまうその理由

(<http://logs.itmedia.co.jp/nagaichika/2012/03>)

(29) 「去年より、全然動いていますし、順調にきていると思います。」

(<http://www.nikkansports.com2015/01/19>)

ここでの「歌えている」や「動いている」は「歌っている」や「動いている」と同じではない。「歌っている」や「動いている」のが前提で、その動きの程度やレベルを問題としている。

(30) 鋭く当たった立ち合いから、相手の反撃をいなして、引き技にも落ちずに足を運んだ。「全体的に、思うように動いているのがいいんじゃないですか」と表情も落ち着いている。

(www.sanspo.com/sports/news/20150312)

また、「可能形式+ている」表現を含む発話の意図を補足した例もある。

(12) 前半だけで交替させられた香川「集中できていなかった」と反省。(<http://www.goal.com/jp/news/123/2015/03/08>)

(31) 左サイドを突破して倉田のゴールにつなげた FW 宇佐美は今季初めて 90 分プレーし「去年より動いている」と手応え。(www.sponichi.co.jp 2015/02/06)

(12) では「反省」が状況を否定的に捉えていること、(31) では肯定的に捉えられていることが「手応え」によって分かる。(12) は取材談話の部分的に引用した記事タイトルであり、取材を受けた当人は、取材の中で「集中できていない」状態の要因とそれが

表す意味を、試合に対する自身の精神的な構えの問題だと言い直している。集中していないつもりはないが、集中している時の理想的なあり方とは異なる状態だと認定せざるを得ない、そのような自己評価が見てとれる。

次の例は「イメージ通り」がカギとなっている。

(16) 「ショットもパットもイメージ通りに打っているし、チャンスはある。」と上位を見据えた

(<http://www.sponichi.co.jp/sports/news/2015/02/20>)

「全然（レベルが違う）」「思うように」「イメージ通り」などの副詞句は、修飾する動詞句の程度を評価するにあたって、求められるあり方を目標値や基準値に設定していることを示している。

このように、「可能形式+ている」が認定する〈出現する状態〉は、期待されるあり方であり、それに該当しているかどうか認定の基準となっている。単なる動作の実現ではなく、期待されるあり方との比較を行い、期待されるあり方を達成しているというときに認定される。したがって、「可能形式+ている」は「動詞できる+ている」と同じく、ある状態を達成していることから来る肯定的評価を含意する。

4・3 可能形式が持つ含意

すでに見たように、「～できる」とは主体の持つ能力を具現化させること、そのチャンスがあること、そうするに足る環境条件が整うこと、などの意味があった。主体の行動を通して出現した状態は、主体のこののみならず主体を取り巻く環境のことも評価していることになる。たとえば(31)は自己評価以外の意味も考えられる。

(31) 左サイドを突破して倉田のゴールにつなげた FW 宇佐美は今季初めて90分プレーし「去年より動いている」と手応え (www.sponichi.co.jp 2015/02/06)

(24) “女優”前田敦子、「やりたい道を歩いている」と脱退後の想い明かす。

(<http://www.cinemacafe.net/article/2014/10/09>)

サッカーはチーム競技であるため、1人のフォワードの動きだけで試合は決まらない。その1人の動きの評価は、連動してチームそのものが機能してはじめて評価される場合もあるだろう。その意味ではチーム全体の動きや試合の進め方を評価している場合もある。したがって、主体の行動によって出現する状態を肯定的に評価したとしても、何について評価したのかに応じて期待するあり方も異なるため、含意に幅が生じる。

また、(24)の「歩いている」は言い換えが難しい。それは、述べようとしていることが、主体自身の問題か、環境条件のことか、それ以外か、そのすべてかについて、詳しい情報が無ければ限定できないからである。「歩く」ことができているかどうかだけでなく、「歩いている」自分と「歩く」自分の意志、それをサポートする周囲な

どによって「歩かせてもらっている」という意味が含まれているという読みも可能である。

さらに、「可能動詞＋ている」には、その語句の使用の独自の評価が組み込まれる。

(25) 初回到西村から左前適時打を打ち「初級から打っているのは、打ちにいている証拠と一定の手応えを口にした。

(<http://www.sponichi.co.jp/baseball/news/2015/02/12>)

(33) 福原美穂は、今日本の中で最も、“歌えてる”シンガーのひとりだと思う。星の数ほどいるシンガーの中でも、彼女の場合はしっかりと“歌えてる”。“歌えてる”というのは、上手いということはもちろん、その歌に込めた想いを、またそれ以上のことを、きちんと聴き手に伝えることができるということ。

でも彼女はもっと“歌える”はずだ。ものすごい高性能エンジンを持っているのに、まだそれを生かしてきいていない…個人的に今までそんな風に映っていた。(http://www.oricon.co.jp 2011/05/11)

上の例において、「打っている」や「歌えてる」の状態の出現は現象として捉えられるが、通常、認定する主体が期待しているあり方は常人以外には知り得ない。(33)において「歌えてる」ことと「歌える」能力があることが区別されている点が、それをよく示している。期待されるあり方を目の前にある主体の行動に象徴させていると言える。そのため、特定の場面や評価基準を共有でき場面でしか共通理解できない。したがって、文章で説明する場合などは、場面や情報を共有しない相手を設定して、その情報や具体的な評価を示す必要がある。

このような「可能動詞＋ている」が一定の定着を見ているのが、「いける」「言えてる」である。「いける」は「いける＋ている」であり、「行く」由来の「いける」は「これはいける、とても美味しい」や「いける口だ」、「へえ、サッカーもいけるのか」のように、上手くやれることや、酒が相当飲めること、料理などがおいしくて、箸がすすむことなどを表す。実際使用されているときには「いける」は「いける」や「いかす」と同じような意味で用いられ、「格好いい」などのいみも持つ。「言えてる」は、相手の言うことに対して、まさにその通りで同意だ、それは上手く表現したといった意味の「言える」とほぼ同じように使われている。いずれも一種の複合語として用いられ、これらの「ている」は「そびえている」「優れている」などと同じく単なる状態を表している。両者は、その意味の理解に必ずしも補足情報を必要としないという点で、表現として固定化されつつあると考えられる。

5. むすび

以上、「可能動詞＋ている」には次の三つの性質のことが明らかになった。

- (34)①主体の行動をとおして、ある状態が出現していることを認定する。
 ②その状態は、期待されるあり方として肯定的な評価を含意する。
 ③主体の行動の結果状態を描写するものであるため、肯定的な評価の内容が具体的に示されることはない。
 なお、期待されるあり方は、眼前に出現した現象や結果をとりあげて、それを導いた主体の能力や主体の置かれている環境条件を象徴させているため、多義的になりがちである。

これらの性質から、この表現は、副詞句や発話環境による含意の限定が無ければ伝達情報が曖昧になりやすいことが明らかになった。また、主体の行動をとりあげつつも、それによって成立した状態を述べるため、主体の行動に視点をおいた側面と出来事のあり方を述べた側面の両方をもつ。レポートなどの客観性を要求される場面で用いられないのも、このような「可能動詞＋ている」ではなく、視点と意味を確定させた客観的な表現が選択されることになるからと考えられる。

参考文献

- 1) 竹沢幸一：「可能形＋テイル」構文の統語と解釈，第39回日中理論言語学研究会発表資料，2014
- 2) 山岡政紀：可能動詞の語彙と文法的特徴，日本語日本文学（創価大学文学部），13，1-36，2003
- 3) 町田 健：日本語の時制とアスペクト，アルク，p31，東京，1989
- 4) 井島正博：可能文の多層分析，日本語のヴォイスと他動性（仁田義雄編），くろしお出版，149-189，1991
- 5) 森山卓郎：日本語動詞述語文の研究，明治書院，東京，138-141，1988
- 6) 森山卓郎：アスペクトの意味の決まり方について，日本語学，3-12，70-84，1984
- 7) 山岡政紀：文機能とアスペクトの相関をめぐる一考察—テイル形の人称制限解除機能を中心に—，日本語日本文学（創価大学文学部），Vol.24，27-39，2014

用例出典

用例末に (S) とあるものは、愛知工業大学「日本語リテラシー」2015年度後期受講者の提出レポートより、その他は、検索エンジン google を用いてウェブサイトより収集した。
 (受理 平成 27 年 3 月 19 日)